

# 研究課題についての調査票

相補・代替医療 の分類※	研究事業の名称	研究課題名	研究概要(原則、数行程度でお願いします。)	研究期 間 (年度)	主任研究 者	主任研究者 の所属機関	予算 (各年度ごとの 予算額)千円	連絡先	備考
1 薬用植物	医薬基盤研究所事業費	薬用植物資源の収集と育種並びに活用と開発に関する研究	薬用植物資源の供給体制の確立を図るため、種子等の長期保存条件の検討、薬用植物等の増殖法やゲノム情報の検討、野生あるいは国外産薬用植物の国内栽培化の検討等を行うものである。	H17～ H21		独立行政法人医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター	H17年度:25,123 H18年度:24,867 H19年度:24,613 H20年度:28,259 H21年度:27,971	大臣官房厚生科学課	
2 薬用植物	医薬基盤研究所事業費	ケシの形質変化に関する研究	薬用資源として重要なケシについて、新規アルカロイドの生産等を目的として、国内外から収集したケシ属植物の隔離栽培並びに組織培養を行い、形態的特性と含有アルカロイドの関連を解明するものである。	H17～ H21		独立行政法人医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター	H17年度:19,515 H18年度:19,316 H19年度:19,119 H20年度:14,450 H21年度:14,303	大臣官房厚生科学課	
3 漢方、鍼・灸	統計情報総合研究事業	東アジア伝統医学のインフォメーションモデルの研究	WHOのICD11改訂版に向けて西洋医学情報と整合性の取れた東アジア伝統医学の情報モデルを作成した。	H21～ H22	渡辺賢治	慶應義塾大学医学部漢方医学センター	H21年度:2,000	大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課保健統計室	
4 漢方	統計情報総合研究事業	漢方医学の証に関する分類の妥当性検討	漢方医学独特の診断法である「証」に関する分類を確立し、国内外における伝統医学統計情報の基盤を作った。	H19～ H20	渡辺賢治	慶應義塾大学医学部漢方医学センター	H19年度:2,243 H20年度:1,500	大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課保健統計室	
5 カイロプラクティック	厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 医療技術評価総合研究	脊椎原性疾患に対する適正な施術の在り方に関する研究	脊椎原性疾患に対するカイロプラクティックなどの施術における禁忌症の取扱いについて、カイロプラクティックの施術について一定の法制度を有する外国の法規制について比較調査し、禁忌症の範囲、禁忌症の疑いのある患者に対する施術者の対応方法などを医学的、法制度的に明らかにすること等	H16～ H18	宇都宮 光明	財団法人全国療術研究財団	H16年度:2,000 H17年度:1,500 H18年度:1,200	医政局医事課	
6 漢方、鍼・灸	厚生労働科学特別研究事業	漢方・鍼灸を活用した日本型医療創生のための調査研究	わが国の伝統医学の国際競争力強化のため、①科学的根拠の確立、②専門的な医療従事者の養成、③生物資源の安定的確保、④社会への情報発信の積極化、⑤調査・研究機関の整備、⑥国際的な課題への対応、⑦インフルエンザ対策に漢方薬を活用した場合に期待できる医療経済効果、および⑧生薬の国内栽培自給率を50%にするために必要な要素について検討を	H21	黒岩 祐治	国際医療福祉大学	H21年度:5,600	医政局研究開発振興課	

# 研究課題についての調査票

7	漢方、鍼・灸	医療技術実用化総合研究事業(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)	主観的個別化患者情報のデータマイニングによる漢方・鍼灸の新規エビデンス創出	漢方・鍼灸医学のエビデンスを確立するための新たな評価手法の検討および評価のためのシステムの構築を行う	H20～H21	渡辺 賢治	慶應義塾大学	H20年度:10,000 H21年度:6,793	医政局研究開発振興課	当初予定研究期間H20～H22
8	漢方	医療技術実用化総合研究事業(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)	小児反復性中耳炎に対する十全大補湯の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験	小児反復性中耳炎に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験(標準的治療+十全大補湯 vs 標準的治療+プラセボ)	H21～H23	吉崎 智一	金沢大学	H21年度:9,990	医政局研究開発振興課	
9	該当なし	医療技術実用化総合研究事業(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)	未破裂脳動脈瘤の治療の評価技術の開発に関する研究	未破裂脳動脈瘤について、①国内疫学研究によるリスク把握、②国内外における治療法の選択状況と有用性の検証および③新たな非外科的治療法の開発を目的とした臨床データの蓄積を行い、治療法選択に関するリスク情報の整備と意志決定支援のためのツールを作成する	H21～H23	野崎 和彦	滋賀医科大学	H21年度:12,500	医政局研究開発振興課	
10	漢方	医療技術実用化総合研究事業(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)	新しく発明された概念に基づく抗がん剤アルケチゲニンの臨床導入	主に毒性を指標とした牛蒡子エキス単剤での用量設定、および膀胱がん患者を対象とした、牛蒡子エキスとジェムザールあるいはS-1との併用療法の安全性と有効性について検討を行う	H21～H23	江角 浩安	国立がんセンター東病院	H21年度:78,000	医政局研究開発振興課	
11	鍼・灸	医療安全・医療技術評価総合研究事業	安全な取穴のための経穴周囲の臨床解剖教材の作成	鍼灸治療においては、経穴とその周囲に存在する組織や構造を立体的に理解させるに足る解剖学的情報ならびにその教育法はきわめて少ないため、教育用ソフトウェアの作成とデータベースの作成を行う	H18～H19	白石 尚基	杏林大学	H18年度:3,000 H19年度:3,000	医政局研究開発振興課	
12	鍼・灸、ホメオパシー、カイロプラクティック、漢方薬、ハーブ、健康補助食品	地域医療基盤開発推進研究事業	統合医療の安全性と有効性に関する研究	相補・代替医療(CAM)および統合医療の利用状況の現状と有効性・安全性について、既存データを収集・整理するとともに、EBMの概念に則って、可能な範囲内で実証作業を行い、海外のCAMをめぐる状況を調査してわが国の医療システムの中でCAMおよび統合医療の扱い方に関する政策提言をまとめる	H18～H20	福井 次矢	聖路加国際病院	H18年度:14,500 H19年度:9,200 H20年度:9,200	医政局研究開発振興課	

# 研究課題についての調査票

13	相補・代替医療全般	地域医療基盤開発推進研究事業	統合医療による国民医療費への影響の実態把握研究	国内外の既存データや現地調査およびweb調査から相補・代替医療の現状を把握し、相補・代替医療の費用や経済的側面を分析する 相補・代替医療が国民の健康投資及び医療費へ影響を与えるかを考察し、国外の現状把握を踏まえ、日本の現代西洋医療と相補・代替医療による統合医療の在り方について検討を行う	H18～H20	西村 周三	京都大学	H18年度:11,250 H19年度:10,000 H20年度:10,000	医政局研究開発振興課
14	鍼・灸、漢方薬	地域医療基盤開発推進研究事業	がん治療による副作用の緩和に関する統合医療の研究	がん患者の治療に伴う痛みとして、パクリタキセル惹起性末梢神経障害関連の苦痛を取り上げ、それに対する鍼灸および漢方を中心とした統合医療の有用性を検証する	H18～H20	下山 直人	国立がんセンター中央病院	H18年度:17,000 H19年度:15,000 H20年度:15,000	医政局研究開発振興課
15	漢方薬	医療安全・医療技術評価総合研究事業	進行胃癌に対する漢方治療の有効性	進行胃癌術後における十全大補湯の臨床的有用性のエビデンスを確立する	H18～H19	太田 恵一朗	国際医療福祉大学	H18年度:7,500 H19年度:7,500	医政局研究開発振興課
16	漢方薬	医療安全・医療技術評価総合研究事業	若年肥満者の生活習慣病としての睡眠時無呼吸症候群の位置づけとその治療法の確立に関する研究	若年者(40歳以下)において、睡眠時無呼吸症候群(SAS)はメタボリックシンドロームの危険因子になるかということ、高齢者(65歳以上)との対比という観点から検討し、さらに、防風通聖散による漢方治療の有用性を検討する	H18～H19	栗山 喬之	千葉大学	H18年度:12,000 H19年度:9,000	医政局研究開発振興課
17	鍼・灸	地域医療基盤開発推進研究事業	循環器疾患に対する根拠に基づく鍼治療の開発事業	動物実験を用いて鍼治療の効果を系統的かつ定量的に評価することによって、鍼治療の観点から循環器疾患に対する総合医療を推進するための基盤を確立する また、健常者においてフィードバック型電気鍼システムの開発に関する基礎研究を実施する	H18～H20	川田 徹	国立循環器病センター研究所	H18年度:5,500 H19年度:3,000 H20年度:3,000	医政局研究開発振興課
18	カイロプラクティック	医療安全・医療技術評価総合研究事業	脊椎原性疾患に対する適正な施術の在り方に関する研究	カイロプラクティック等の施術を受ける患者の安全を確保するため、診断権のないカイロプラクティック等の施術者が禁忌症等リスクの高い患者に対応することを目的に平成18年度において作成されたマニュアルが存在する このマニュアルの周知をはかり、より実践的なものとしての完成度を高めるとともに、施術者が理解するためのプログラムの作成を行う	H19	宇都宮 光明	財団法人全国療術研究財団	H19年度:1,000	医政局研究開発振興課

# 研究課題についての調査票

19	漢方薬	地域医療基盤開発推進研究事業	進行頭頸部癌に対する漢方治療の有用性評価	化学放射線同時療法が施行される頭頸部癌患者に関する無作為化群間比較対照試験(標準的治療+十全大補湯 vs 標準的治療)を行い、漢方薬による、QOL、免疫能改善作用等の評価を行う	H19～H21	古川 侑	金沢大学	H19年度:8,000 H20年度:8,000 H21年度:8,000	医政局研究開発振興課
20	漢方薬	地域医療基盤開発推進研究事業	抑肝散の示す精神疾患周辺行動改善に対する科学的検証	臨床的に効果が認められている漢方薬、抑肝散のアルツハイマー病や統合失調症の改善効果を科学的に立証し、抑肝散の作用機序を解明する	H20～H21	遠山 正彌	大阪大学	H20年度:10,000 H21年度:10,000	医政局研究開発振興課
21	カイロプラクティック	地域医療基盤開発推進研究事業	脊椎原性疾患に対する適正な施術の在り方に関する研究	カイロプラクティックなど手技療法の施術を受ける患者の方々の安全を確保する観点から、各施術所において発生している事故並びにクレームの状況を調査し、問題点を明らかにする	H20	宇都宮 光明	財団法人全国療術研究財団	H20年度:1,100	医政局研究開発振興課
22	漢方薬	地域医療基盤開発推進研究事業	根拠に基づく更年期障害治療推進のための洋漢統合医学的エビデンスの構築	更年期障害症状のうちホルモン補充療法と桂枝茯苓丸の効果は無作為に比較することで、桂枝茯苓丸がどの症状により有効性があるか検討するとともに、桂枝茯苓丸有効例と無効例についてエストロゲン受容体遺伝子多型解析で識別を試みる	H20～H21	並木 隆雄	千葉大学	H20年度:8,000 H21年度:8,000	医政局研究開発振興課
23	鍼・灸	地域医療基盤開発推進研究事業	鍼灸を含めた内因性鎮痛法の機序の解明およびがん緩和医療における臨床的適応に関する研究	1. 医療者向け、鍼灸師向け、患者向けの緩和ケアにおける鍼灸のガイドライン作成 2. 鍼灸を始めとした刺激鎮痛法の緩和ケアにおける役割の臨床試験での検討 3. 基礎研究による鍼灸を始めとした刺激鎮痛法の機序の解明 を行う	H21～H22	下山 直人	国立がんセンター中央病院	H21年度:26,000	医政局研究開発振興課
24	漢方薬	地域医療基盤開発推進研究事業	メタボリック症候群に対する漢方薬防風通聖散の臨床的有用性を検討する臨床研究	メタボリック症候群に対する代表的漢方薬である防風通聖散の有用性を、漢方医学的観点も取り入れながら検証することを目的としたランダム化比較試験を行う	H21～H22	小田口 浩	北里大学	H21年度:2,330	医政局研究開発振興課

# 研究課題についての調査票

25	温泉療法	健康科学総合研究事業	温泉利用と生活・運動指導を組み合わせた総合的健康教育に関する実証的研究	温泉利用と生活・運動指導の組み合わせが体力、ADL、精神心理面等にどのように影響を及ぼすかを明らかにすることを目的とした研究である。	H15～H17	上岡 洋 晴	東京農業大学地域環境科学部造園科学科	H15年度:10,700 H16年度:5,700 H17年度:3,990	健康局総務課生活習慣病対策室	
26	温泉療法	循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	公衆浴場を利用した安全で有効な健康づくりに関する研究	公衆浴場を利用した安全で有効な健康づくりのメニューを提示することを目的とした研究である。	H17～H19	鏡森 定 信	富山大学大学院医学薬学研究部	H17年度:8,800 H18年度:8,208 H19年度:6,900	健康局総務課生活習慣病対策室	
27	温泉療法	循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	温泉利用と生活・運動・食事指導を組み合わせた職種別の健康支援プログラムの有効性に関する研究	ブルーカラー男性とホワイトカラー男性を対象とし、生活・運動・食事指導に温泉を組み合わせた複合的な介入による健康増進効果を明らかにすることを目的とした研究である。	H18～H20	上岡 洋 晴	東京農業大学地域環境科学部造園科学科	H18年度:7,000 H19年度:4,400 H20年度:3,500	健康局総務課生活習慣病対策室	
28	温泉療法	循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	温泉利用が健康増進に与える効果および安全性に関する研究	温泉利用が中高年の健康増進にもたらす総合的効果を検証することを目的とした研究である。	H21～H23 (予定)	藤原 佳 典	(財)東京都高齢者研究・福祉振興財団	H21年度:9,000	健康局総務課生活習慣病対策室	
29	代替療法	がん臨床研究事業	生活習慣や支持療法等が乳がん患者のQOLに与える影響を調べる多目的コホート研究	生活習慣や支持療法、代替療法などが、乳がん患者のQOLや再発、死亡などの予後に与える影響を調べることを目的に、乳がん患者の大規模コホート研究を実施。	H19～H21	山本 精一	国立がんセンター	H19年度:22,698 H20年度:24,100	健康局総務課がん対策推進室	
30	健康食品・民間療法	第3次対がん総合戦略研究事業	がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担最小化に関する研究	患者の経済的負担の実態把握と患者の立場から負担を最小化する方策を根拠に基づき検討。	H19～H21	濃沼 信夫	東北大学	H19年度:16,000 H20年度:19,360	健康局総務課がん対策推進室	

# 研究課題についての調査票

31	漢方・鍼灸	がん臨床研究事業	進行卵巣がんの集学的治療に関する研究	外来化学療法中の卵巣がん患者を対象に、西洋医学のみでは対策に難渋する副作用軽減を目指したランダム化比較試験を施行。それにより漢方薬の副作用軽減効果を科学的に立証することを目的とする。	H17～ H18	八重樫 伸 東北大学	H17年度:20,800 H18年度:19,960	健康局総務課がん対策推進室
32	健康食品・民間療法	第3次対がん総合戦略研究事業	がん医療経済と患者負担最小化に関する研究	患者の経済的負担の実態把握と患者の立場から負担を最小化する方策を根拠に基づき検討。	H16～ H18	濃沼 信夫 東北大学	H16年度:14,000 H17年度:14,000 H18年度:9,800	健康局総務課がん対策推進室
33	漢方薬	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業	一般用漢方処方の見直しに資するための有用性評価(EBM確保)手法及び安全性確保等に関する研究	1.一般用漢方処方の有用性評価(EBM確保)のための手法の確立、2.同処方の有用性評価のための実証的研究、3.同処方の品質及び安全性確保のための研究、4.同処方のATC分類に関する研究、5.漢方処方の国際調和に関する研究を並行して行い、それぞれの研究成果を有機的に連動させながら、6.一般用漢方処方を見直しを図るための調査研究で、同処方の見直し案の作成を行う。	H15～ H17	合田幸広 国立医薬品食品衛生研究所	H15年度:12,000 H16年度:12,000 H17年度:11,110	医薬食品局審査管理課
34	漢方薬	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業	生薬及び漢方処方の有用性評価手法・安全性確保と国際調和に関する研究	1.漢方処方の使用実態調査研究(AUR)、2.生薬・漢方処方の品質確保に関する研究、3.生薬中の不純物に関する研究、4.漢方処方の品質評価と同等性に関する研究、5.生薬及び漢方処方の国際調和に関する研究を行う。	H18～ H20	合田幸広 国立医薬品食品衛生研究所	H18年度:10,000 H19年度:12,000 H20年度:9,981	医薬食品局審査管理課
35	漢方薬	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業	漢方処方製剤の安全性及び同等性の評価並びに生薬の品質確保と国際調和に関する研究	1.一般用漢方処方製剤の安全性と有用性に関する研究、2.医療用漢方処方の同等性に関する研究、3.漢方処方の安全性、有効性に関する研究、4.生薬の品質確保に関する研究、5.生薬の国際調和に関する研究を行う	H21～ H23	合田幸広 国立医薬品食品衛生研究所	H21年度:10,000	医薬食品局審査管理課
36	音楽療法(精神療法)	こころの健康科学研究事業	精神療法の実施方法と有効性に関する研究	○ 統合失調症患者における音楽療法の効果を検討するために、音楽療法の活用の効果の比較検討(音楽療法単独、通常療法及び音楽療法の併用、通常療法単独、治療未実施等)を行った研究の文献レビューを実施するとともに、音楽療法の有効性について実験に基づく検証を行った。 ○ 音楽療法と通常療法の併用に効果を認める文献が散見されたが、本研究の検証においては音楽療法の有効性は見い出せなかった。	H16～ H18	大野裕 慶應義塾大学保健管理センター	H16年度:20,000 H17年度:19,000 H18年度:19,000	社会援護局障害保健福祉部精神・障害保健課

# 研究課題についての調査票

37	食事療法	長寿科学総合研究事業	痴呆の予防・治療と食事栄養	食事パターンや栄養指導による認知機能の維持・改善についての研究。	H16～H17	植木 彰	自治医科大学附属大宮医療センター神経内科	H16年度:18,000 H17年度:15,700	老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室
38	健康補助食品	長寿科学総合研究事業	痴呆性疾患の介入予防に関する研究	運動、栄養、睡眠からなる予防介入を実践し、認知機能を継続的に計測し、介入の効果を検討する。	H16～H17	朝田 隆	筑波大学大学院	H16年度:24,000 H17年度:20,400	老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室
39	精神療法	長寿科学総合研究事業	認知症に対する非薬物療法の有効性に関する研究	回想法・音楽療法・レクリエーション療法など非薬物療法の有効性のエビデンスを検証する。	H18～H19	服部 英幸	国立長寿医療センター	H18年度:7,000 H19年度:6,300	老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室
40	音楽療法(精神療法)	こころの健康科学研究事業	精神療法の実施方法と有効性に関する研究	○ 統合失調症患者における音楽療法の効果を検討するために、音楽療法の活用効果の比較検討(音楽療法単独、通常療法及び音楽療法の併用、通常療法単独、治療未実施等)を行った研究の文献レビューを実施するとともに、音楽療法の有効性について実験に基づく検証を行った。 ○ 音楽療法と通常療法の併用に効果を認める文献が散見されたが、本研究の検証においては音楽療法の有効性は見い出せなかった。	H16～H18	大野裕	慶應義塾大学保健管理センター	H16年度:20,000 H17年度:19,000 H18年度:19,000	社会援護局障害保健福祉部精神・障害保健課
41	鍼・灸	科学技術振興調整費「重要課題解決型研究等の推進」	統合医療の科学的評価法開発と臨床指針作成	工学、音声学、神経薬理学・生理学、画像解析等の手法を用い、生体のツボ特性、音声学に基づく個人の体質分析、滋樹に対する生体の生理学的・薬理学的反応の解明を図る。	H18～H19	森 和	鈴鹿医療科学大学	H18年度:29,971 H19年度:30,111	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
42	鍼・灸	科学技術振興調整費「重要課題解決型研究等の推進」	代替医療、とくに漢方及び鍼灸における多角的な科学的評価手法の研究	代替医療の内、特に漢方および鍼灸について、医工学、プロテオミクス、心身医学、医療経済学などの多角的アプローチにより、代替医療の科学的評価に関する資料の収集、分析および調査研究を行い、評価の現状と問題点を明らかにする。さらに、評価のための科学的手法を開発し、漢方、鍼灸における具体的な調査研究事例を検討する。	H17	仁田 新一	東北大学	H17年度:31,212	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
43	漢方鍼・灸	科学技術振興調整費「重要課題解決型研究等の推進」	鍼灸・漢方の疾患予防効果を中心とする評価手法の開発・確立	平成17年度の「代替医療、とくに漢方及び鍼灸における多角的な科学的評価手法の研究」における医工学的な評価手法の研究開発の結果を進展させ、先端的な医工学技術を応用した統合医療における鍼灸評価手法の確立を目指す。	H18	仁田 新一	東北大学	H18年度:31,204	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
44	漢方鍼・灸	科学技術振興調整費「重要政策課題への機動的対応の推進」	統合医療における生体情報の先進医工学的計測手法に関する調査研究	統合・代替医療における医学的効果を科学的かつ定量的に検証するための先進医工学計測・解析手法の開発と、代替医療における臨床現場との有機的連携を目指す。	H19	仁田 新一	東北大学	H19年度:29,998	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)

# 研究課題についての調査票

45	漢方 鍼・灸	科学技術振興調整費「重要政策課題への機動的対応の推進」	代替医療・統合医療の科学的評価手法確立に向けた調査研究	①漢方についてはその効果を評価する研究 ②鍼灸については、当該分野以外の医科学研究の成果を活用した適切な評価手法の確立のためなどの総括的研究を行う。	H20	仁田 新一	東北大学	H20年度:29,893	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
46	漢方	科学技術振興調整費「重要課題解決型研究等の推進」	漢方「脈診」診断法のカオス解析と科学化	漢方脈診の科学化に向けての基礎データを集積し、生活習慣病関連遺伝子多型との関連性について検討を加える。さらに、血管年齢と脈診の関係を解析する。	H17～ H18	丸山 征郎	鹿児島大学	H17年度:27,982 H18年度:28,000	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
47	漢方	科学技術振興調整費「重要政策課題への機動的対応の推進」	漢方抗酸化能による動脈硬化・脳内老化予防の体系的評価手法開発	動脈硬化・脳内老化を引き起こす酸化ストレス・炎症等に関連する既知のバイオマーカーを網羅的に評価する抗体チップを確立するとともに、細胞内酸化還元制御に基づく新規の評価手法を確立する。	H19	渡邊 賢治	慶應義塾大学	H19年度:29,974	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
48	健康食品	科学技術振興調整費「重要課題解決型研究等の推進」	代替医療の科学的評価手法の指針の開発	代替医療の各分野の評価方法に関し、現存する方法論を調査し、分析、整理する。その上で、個人差を尊重しつつ少なくとも判定量的な評価を可能とする要素、あるいは条件などを検討し、新たな評価方法を開発するための指針を策定する。	H17	吉川 敏一	京都府立医科大学	H17年度:31,198	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
49	健康食品	科学技術振興調整費「重要政策課題への機動的対応の推進」	機能性食品の科学的評価手法の調査研究	代替医療の一つである機能性食品を開発するために必要な、疾病発症前段階いわゆる「未病期」を診断できるバイオマーカー(疾病発症リスクマーカー)を用いた科学的評価手法を構築し、機能性食品の効能を正しく立証することで予防医学を普及させることを目的とする。	H19	吉川 敏一	京都府立医科大学	H19年度:29,998	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
50	マッサージ 柔道整復・整骨	科学技術振興調整費「重要課題解決型研究等の推進」	整体の分子作用と科学的評価手法の開発	骨の調整による体全体のバランスを整える「整体」のメカニズムを解明するとともに、実験系において「整体」の骨の調整や全身性の機能を制御することが可能となる方法を科学的に開発する。	H18～ H19	野田 政樹	東京医科歯科大学	H18年度:29,622 H19年度:28,629	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付(推進調整担当)
51	健康補助食品	グローバルCOEプログラム	健康長寿科学教育研究の戦略的新展開	超高齢化社会に直面し、健康長寿への社会的要請が強まる中、医薬品と食品の相互作用や安全性に着目し、「食」と「薬」の学際的研究分野における研究者等を養成するための教育研究拠点を形成する。	H19～ H23	木苗 直秀	静岡県立大学	H19年度:262,990 H20年度:265,460 H21年度:246,883	文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室



# 予算事業についての調査票

相補・代替医療 の分類※	予算事業名	事業概要(原則、数行程度でお願いします。)	補助先または 委託先	予算 (H21、22年度の 予算額)千円	創設年 度	連絡先	備考
1 該当なし	統合医療海外調査事業費	わが国の統合医療の推進のために、統合医療が進んでいる米・英・独等の欧米諸国の統合医療への取り組み状況等に関する情報収集及び実地調査を行うもの		H21年度:11,992 H22年度:11,927	H21	医政局研究開発振興課	
2 漢方薬、ハーブ	未来志向型技術革新対策事業のうち新需要創造対策事業	機能性農産物などの安定供給体制の確立のため、産地や民間企業が行う栽培技術の実証や必要な機械・施設の整備などについて支援。また、全国段階で、事業化に意欲のある産地と民間企業のマッチング等の取組を支援。 (新品種や新たな機能性に着目した支援であり、既に商品化している従来の漢方薬等は対象外)	農業法人・特定農業法人・農業生産法人・農事組合法人・農業者の組織する団体・営農集団・集落営農組織・農業協同組合・特定農業団体・民間法人・その他	H21年度:400,000 H22年度:132,000 (22年度については内数、他に強い農業づくり交付金による施設整備事業が可能)	H19	農林水産省生産局技術普及課	
3 漢方薬、ハーブ	イノベーション創出基礎的研究推進事業	農林水産・食品産業等におけるイノベーションにつながる革新的な技術シーズの開発及び開発された技術シーズを実用化に向けて発展させるための研究開発を提案公募を通じて大学、民間企業に委託 ①技術シーズ開発型 理工系を含む研究者の独創的なアイデア、基礎研究の成果を基に、イノベーションにつながる新たな技術シーズを開発する基礎研究(目的基礎研究) ②発展型 技術シーズ開発型や他の研究制度で開発された技術シーズを実用化に向けて発展させるための研究開発	大学、独立行政法人、公立試験研究機関、民間企業等の研究者または研究グループ	H21年度: 6,800,000 H22年度: 5,994,000 (H22年度公募は終了)	H20	農林水産省農林水産技術会議事務局	
4 温泉療法	温泉利用に関する医学的検討調査	温泉利用に関する医学的知見を収集・整理し、医師の考察を踏まえ、当省が策定した「温泉の禁忌症及び入浴又は飲用上の注意決定基準」及び「温泉の適応症決定基準」の改定案等について検討を行う。	H21年度:日本温泉気候物理医学会 H22年度:未定	H21年度:4,725(契約額) H22年度:25,127の内数	H17	環境省自然環境局自然環境整備担当参事官室	

# 要望書についての調査票

相補・代替医療の分類※	要望書の提出主体	要望事項(事項名)	要望の概要(原則、数行程度でお願いします。)	提出日	連絡先	備考
1 漢方	日本漢方生薬製剤協会	(独)医薬基盤研究所薬用植物資源研究センターについての要望	漢方製剤、生薬製剤及び生薬の安定供給に多大な貢献を果たしていることから、薬用植物資源研究センターの存続を求めているもの	H22.2.16	大臣官房厚生科学課	
2 マッサージ	国リハあはきの会	視覚障害あはき師の環境改善に関する要望	あはき無免許者への指導・取締りについて、厚労省と警察庁が協力して取り組むこと等	H21.11.9	医政局医事課	
3 マッサージ	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゆう師等に関する法律推進協議会	タイ・スパ・サービス受け入れ反対の陳情	日・タイ経済連携協定における、タイ・スパ・サービスに従事する者の受け入れに反対する。	H20.2.20	医政局医事課	
4 カイロプラクティック	カイロプラクティック業協同組合連合会	カイロプラクティック(手技)療法についての資格制度化	カイロプラクティックの法制化・資格制度化を要望する。	H17.7.30	医政局医事課	
5 伝統医学	東洋医学サミット会議	伝統医学に関する担当セクションの設置願い	伝統医学に関する担当セクションを設置していただきたい。	H17.5.30	医政局医事課	
6 伝統医学	日本臨床漢方医会	伝統医学担当セクション設置の願い	東洋医学、漢方に関する担当セクションを設置していただきたい。	H17.5.30	医政局医事課	
7 漢方薬	日本東洋医学会	安定供給に関する御願い	漢方製剤の必要性に鑑み、適切な薬価で再算定され、今後も製薬企業からの安定供給が継続されるように考慮していただきたい。	H21.12.22	医政局経済課	
8 漢方薬	日本臨床漢方医会	安定供給に関する御願い	漢方製剤の必要性に鑑み、適切な薬価で再算定され、今後も製薬企業からの安定供給が継続されるように考慮していただきたい。	H21.12.28	医政局経済課	
9 カウンセリング	特定非営利活動法人全国精神障害者団体連合会	カウンセリングについて	カウンセリングの医療費が高額であるため、価格を引き下げてください	H20.11.19	社会援護局障害保健福祉部精神・障害保健課	

10 音楽療法 (精神療法)	日本音楽療法学会	音楽療法士の国家資格化について	音楽療法士を国家資格化するとともに、音楽療法を介護保険及び障害者自立支援法の対象にしていただきたい	H22.1.13	社会援護局障害保健福祉部精神・障害保健課	
-------------------	----------	-----------------	---	----------	----------------------	--

## その他についての調査票

相補・代替医療の分類※	概要(原則、数行程度でお願いします。)	連絡先	備考
1 伝統医学(東洋医学)に関する分類のICDへの導入を支援	昨年から開始されたICD10から11への改訂作業の一環として伝統医学に関する分類のICDへの導入を検討開始する旨WHOから報告があったため、検討作業を支援する。また、現在WHO-FIC研究協力センターの申請を検討しており、日本東洋医学会に参画を呼びかけているところである。	大臣官房統計情報部人口動態保健統計課疾病傷害死因分類調査室	
2 4)③健康補助食品	インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視業務として、不適正な表示がされているサイトについて改善指導を実施する。	消費者庁食品表示課	
3 4)③健康補助食品	消費者庁の「健康食品の表示に関する検討会」において、健康食品の表示の適正化を図るための表示基準や執行のあり方を含め、いわゆる健康食品に関する表示の課題について議論を行っているところである。	消費者庁食品表示課	
4			
5			

# 当面の進め方について(案)

資料4

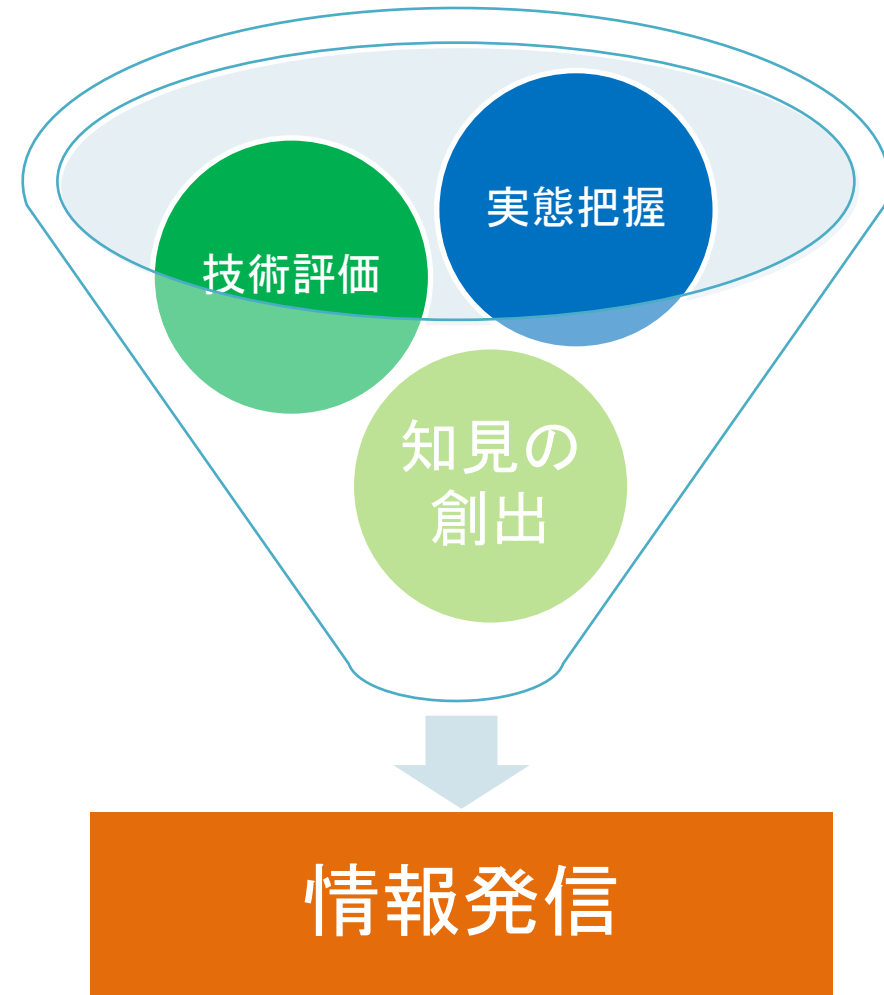
## 1. 統合医療とは

統合医療とは、「近代西洋医学」と「相補・代替医療」を組み合わせた医療である。

## 2. 基本的考え方

相補代替医療は多種多様で、科学的根拠が乏しいものも少なくない。統合医療を推し進める上で、まずは実態把握をし、科学的根拠等に基づいて技術評価した上で、新たな知見の創出のための研究を推し進めつつ、国民に情報発信をしていく。

## 3. 基本的進め方



# 当面の進め方について(イメージ)

